

菅生中だより

北九州市立菅生中学校
学校だより
校長 白石 義人
令和元年10月15日発行

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後のとりくみについて

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学，英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	どの領域とも正答率は全国平均より下回っている。また、無解答率も全国平均より高い。	下回っている
数学	どの領域とも正答率は全国平均より下回っている。また、無解答率も全国平均より高い。	下回っている
英語	どの領域とも正答率は全国平均より下回っている。また、無解答率も全国平均より高い。読み取る問題については、全国平均を上回っているものもある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

読書への関心が低く、結果として読書をする習慣も身につけていない。また、家庭学習では、学習方法や学習時間の割り振りなど、計画を立てて勉強することが苦手であり、学習時間も短い傾向にある。その結果、学校での学習でも、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることや、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んで話し合うことが苦手とする生徒が多い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○普段の授業の中で板書計画用ノートを作成し、生徒の思考の過程を想定した授業づくりを実践する。
○問題を工夫して解決の見通しをもたせ、考えを広げたり、深めたりする話し合い活動を行う。その際、生徒に、自分の考えた過程をノートに記入させ、話し合い活動を通して、他者の考えからわかったことを記入させる。
○話し合い活動を通して学んだ題材を利用して、定期考査で問題解決を考える過程を答えさせる問題を出題する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習用のプリント等を長期休みや週末等の課題として出し、評価・点検する。
○定期テスト前に学習計画表を作成し点検・指導する。
○定着度診断シートを活用して、既習の学習内容を復習させたり、結果を基に自分の弱点を補充したりする学習を行わせる。